

変化する働き方

宮崎第一高等学校 3年 ^{すぎ}杉 ^{はら}原 ^{あおい}葵

近年、人々の働き方は大きく変化しています。かつて主流だった、安定した収入や長期雇用を重視する形から、最近では、仕事に楽しさややりがい、達成感を求める人が増えています。さらに、リモートワークや副業、フリーランスなど、時間や場所にとらわれない働き方も、当たり前になってきました。自分の可能性を広げ、家庭との両立やモチベーションの向上につながるこの多様化は、社会にとって大きな進歩のように思えます。

しかし、この変化には欠点もあります。それは、自由を手にした一方で、私たちの心や体に見えない負担を与えているという点です。

実際に私の家庭でも、この働き方の変化による混乱を経験しました。数か月前まで、私の母は在宅でリモートワークをしていました。毎日の通勤時間が無くなった分、家族と過ごす時間が増え、家庭との両立というメリットをととても感じていました。しかし、今年の4月に母が転職してから、状況が大きく変わりました。新しい職場は多様な働き方を掲げていましたが、実際には慣れない仕事に追われ、朝早くから夜遅くまで働く日々が始まりました。仕事のストレスから体調を崩し、食事也十分にとれなくなっていく母の姿に、私はとても心配になりました。

そこで、少しでも母の負担を減らすために、春休みの間は毎日夕食を作りました。春休みが終わると、今度は父が在宅勤務を会社に希望し、家事を担ってくれました。家族みんなで支え合うことで、なんとかこの状況を乗り越えることができました。この経験から、働きすぎは確実に心身に悪影響を及ぼすということ、そして一人で抱え込まず、周囲と協力することの大切さに気付きました。

これからの時代、自分にあった働き方を見つけ、健康や生活とのバランスを考えることが何より大切です。楽しさややりがいを求める自由には自己管理という責任も伴います。しかし私は、この問題を、すべて個人の「自己管理」や、「家族の支え合い」という努力で片づけてしまってよいのか、ということを強く主張したいです。私は、今の日本の社会制度そのものを見直す必要があると考えます。

デジタル化やテレワークは「いつでも、どこでも働ける」便利さを生み出しました。しかしそれは、「24時間いつでも仕事の連絡が届き、心が休まらない」ということでもあります。この、見えない労働時間の増加こそが大きな問題だと思います。

そこで提案したいのは、日本への、「つながらない権利」の導入です。これは、勤務時間外や休日に、仕事に関するメールや電話への対応を原則として拒否できる、新しい労働者の権利です。フランスやイタリアなどヨーロッパを中心に、すでに法律で義務化する国が増えています。「返信しなければ評価が下がるかもしれない」という見えない圧力から労働者を守るためには、こうした明確なルールが必要不可欠です。働き方が大きく変化する今こそ、このルールの策定を急ぐべきではないでしょうか。

これから進路を考える私は、ただ社会の変化を受け入れるだけでなく、責任を意識しながら自分らしく働きたいと考えています。個人の努力に限界があるからこそ、国が、社会が、制度として私たちを守ってほしいです。「つながり続ける」便利な社会だからこそ、誰もが自分に合った仕事を選んで、命や健康を何より大切にできる社会であってほしいと思います。